

お前の居なくなつた室に

お前の居なくなつた室に  
明るい光が入り込まうとして  
さはぎ立ててゐる  
椅子はしづかに向ひあつてゐた

もうお前は決して帰らない  
額ぶちの中の椿の葉の葉脈が  
をどり出すやうにふるへてゐる  
戸をあけて誰かが入つて来た

湖のほとりに芽ぶく樹ばかり  
孤独を守るために  
雲はかがやき走るばかり

お前の死は近づいてゐる  
冷えきつた室の空気の中で  
しみじみと感じられる